

都市大塩尻 貫禄の2冠

高校サッカー

第90回全国高校サッカー選手権県大会は6日、松本市アルウィンで東京都大塩尻―東海大三の決勝を行い、1-1のまま延長でも勝負が決せずつれ込んだPK戦を都市大塩尻が5-4で制し、3

年ぶり2度目の優勝を果たした。都市大塩尻は県高校総体と合わせて2冠。

先手を取ったのは東海大三。前半4分中盤からボールを運んだ小池がミドルシュートを決めて先制した。都市大塩尻は早めの選手交代で次第にペースを取り戻すと、後半11分に途中出場の代田のゴールで同点に追い付いた。都市大塩尻はそ

の後の決定機を生かせず、勝負はPK戦に。互いにGKが1人ずつを止めて迎えた6人目、先制りの都市大塩尻が成功したのに対し、東海大三はバーに当てて外した。都市大塩尻は首都圏を会場に12月30日に開幕する全国大会に出場。組み合わせ抽選は今日21日に行う。

早め交代で追い付きPK戦制す



都市大塩尻―東海大三 後半11分、同点ゴールを決める都市大塩尻・代田(9)

PK戦の勝負を分ける要素に勢いがあるならば、それは間違いない。都市大塩尻の側であった。先制を許したが、早めの選手交代で流れを引き寄せ追い付くと、その後も主導権を握り続け、PK戦では1人目をGK寺沢が止め



た。「苦しかったが、選手たちは慌てなかった」と高橋監督。地力を出し切れれば負けない自信があった。追う展開になったため、前半のうちに切り札を切った。37分、代田と中沢の攻撃的な選手を同時投入。「後半開始から全開で行くため(高橋監督)にあえて時間を早めた交代が実を結ぶ。

東海大三 攻めきれず

○…東海大三は試合開始直後の先制点、さらにその後も続いた攻勢を勝利につなげられなかった。「自分たちのペースのうちに追加点が取れていれば…」と今福主将。勝負を懸けた前半に攻めきれなかった展開を悔や席処分となるアクシデ

厚い選手層 実力を発揮

後半11分、右からのスローインを高山が頭で前線へ。足元にボールを収めた代田は「ターンすると決めていた」。前を向くと迷わず左足でシュート。ボールはDFの足とGKの手に弾かれながらもゴールネットに届いた。3年前に初優勝した翌春、県中学選抜の主だったメンバーの多くが入学した。それが現在の3年生。主将の根本はその時に見たサッカーがしたくて、みんな誘い合った」と明かす。その流れは翌年以降も続き、県内強豪校のある指導者が「メンバー外の選手だけで強いチームが一つ作れる」とうやむよどの選手層に、その力を存分に発揮しての頂点だった。

全国大会での県勢の勝利は、旧校名「武蔵工大」で出場した都市大塩尻が初戦をPK戦勝ちしたのが最後。3年前のチームを超えたい。ベスト8を狙う」と根本主将。高橋監督も「今回のチームは能力のある選手を基礎から鍛えてきた。目標に向けてさらに精進したい」と結果を求める姿勢を強調した。

(板倉就五)

▽決勝 都市大塩尻 東海大三

0-1
1-1 延長
0-0
0-0
(PK5-4)

00000130013
森脇 藤原 柳池 井田
藤原 近 青 小 赤 久 保
10 24 9
GK DF MF FW GK GK
寺沢 守 倉 高 橋 清 中 青
00010120001

▽得点経過 都 東 池
前4【東】0-1 小 代
後11【都】1-1 代 田

▽交代【都】代田3 (古沢)
中沢1 (中村慎) 藤沢0 (清水)
戸田1 (笠井) 木下0 (赤沼)
五味0 (小池)
▽警告【都】守屋、藤沢

緊張の舞台でGK躍動

○…「助走で体が開いていなかった」ので、右しかないと思った。PK戦の1人目を読み切って止めた都市大

塩尻のGK寺沢は派手にガッツポーズ。スタンドの声援に応えるなど、緊張の舞台を楽しむかのように躍動した。

始動が早くやり直しとなった4人目の1回目、続く5人目と結果的に成功

を許したが、シュートコースに反応して相手に重圧を与えた。6人目がバーに当てて外したことも踏まえ「プレッシャーをかけ続けられたことが良かった」と勝利の主役になった余韻に浸った。